

一人称代名詞と意味の多元性

森永 豊 (MORINAGA Yutaka)

東京大学

本発表は、英語の一人称代名詞の語用論と意味論を扱う。一人称代名詞は複数の使用方法を持つが(Jaszczolt, 2013; Kratzer, 2010)、考察の対象をその指示的な使用に限定する。カプランの指標詞の理論(以下、標準理論)が、英語の一人称代名詞の意味に対する標準的な説明である。この理論の骨格となる洞察は、一人称代名詞を含む指標詞が直接指示的であるという考え方と、指標詞が発話の場面における指示対象を決定する規則に従って使用されるという考え方である。ところが、一見すると標準理論ではうまく扱えないような代名詞の現れをもつ文がこれまで複数指摘されてきた。そうした事例の存在ゆえに、標準理論が認めるよりも多くの文脈的要素をピックアップできるように、標準理論の使用規則を改訂するべきであるという考え方が登場した(Numberg, 1993)。また、意味論と語用論の境界設定問題に関する文脈主義への支持を背景にしつつ、複数の言語における事例を証拠に用いて、指標詞というカテゴリーごと標準理論を廃棄すべきであるという考え方も登場している(Jaszczolt, 2013)。

本発表では標準理論を擁護する観点から、標準理論に対する一人称代名詞のアノマリーを一つ取り上げる。

(1) The Founders invested me with sole responsibility for appointing Supreme Court justices. (Numberg (1993))

(アメリカ合衆国の)建国者は、私に最高裁判事を任命する単独の権限を付与した。

(1)における“me”の現れは、端的にこの文の発話者を指示すると見なせない。この現れは、発話者が合衆国大統領であるという内容を暗黙裡に表している。建国者は、時の大統領に任命権を与えたのであってバラク・オバマその人に任命権を与えたわけではなく、大統領であるという限りでのバラク・オバマにこれを与えたのである。ナンバーグによれば、この事例における“me”は、帰属的に使用された確定記述“the president”で“me”を置き換えた文と同等に解釈される。

(2) The Founders invested the president with sole responsibility for appointing Supreme Court justices. (Numberg (1993))

(アメリカ合衆国の)建国者は、大統領に最高裁判事を任命する単独の権限を付与した。

本発表の目標は、ナンバーグの説明に反対し、標準理論を維持する線に沿った代替案を提示することである。ナンバーグの説明は指標詞の使用規則を場当たりの仕方で複雑にしており、もしも標準理論の枠内で(1)のような事例を説明できるならば、これを却下するためのよい理由を与える。標準理論の枠内で説明するもうひとつの動機は、ナンバーグの説明が発表者の直観に反するということだ。(1)の内容には、発話者自身が直接関係していると思われる。この直観に沿う説明の可能性は、語が同時に複数の意味の担い手となるという、意味の多元性(multidimensionality)を主張することだ(Potts, 2007, 2008)。これを敷衍すると、語は文の真理条件に関係する意味と規約的に定まる二次的な意味を同時に持たせられていて、そうした意味同士が発話の場面で相互に作用して聞き手に伝達される発話の内容を形成する、このような方向で説明する可能性である。ポッツのこうした考え方を応用すると、(1)の“me”は、これが発話された場面であくまでも発話者を指示対象とするが、同時に、発話者が関係する性質（ここでは、「大統領であること」）の担い手であるという含みも持たせられているということになる。本発表は、(1)に対するナンバーグの説明を批判し、意味の多元性という考え方を一人称代名詞に対して応用することを試みる。